	車:	業名	215	520	市民海外派遣事業費	圩	当課			海外戦略室	内線	
	77	*11	枝 番		中以海外派追予不良	1	- AF	/#/1 전레포			2416	
		会討	+	1	一般会計	413	政策	ren	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして		
3		款		2	総務費	総合	分野	分野		地域		
多	Į	項		1	総務管理費	計画	基本施	策	1	地域に住み続けたいという思いを育てる		
	ſ	目		15	海外戦略推進費	I	施策	///	4	ふれあいの推進		
		根拠記	+画		海外戦略ビジョン							
	実施計画事業市長公約		事為	Ě	市民海外派遣事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	中学生以上の市民	対象者数	75 人				
どういう状態 にしたいのか (意図) ・市民の国際理解の啓発を図り、幅広い知識をもった国際社会に対応できる人材を育成する。								
概要	事業の 実施手法 (手段)	・飛騨高山国際協会が実施する英語スピーチコンテストと市教育委員会 し、派遣先の言語や文化について学習会を実施した後、1週間の期間で トラリアではホームステイを通じて異文化や外国の生活習慣を学びなが 学や友好都市麗江市の交流を通して両市の友好を深める。	海外へ派遣する。派	造先のアメリカとオース				

2 事業の推移・結果(Do)

	•平成23年8月11日~8月17日	カナダコース(シアトル・ビクトリア) 22名
H23の実績	•平成23年8月11日~8月17日	オーストラリアコース(ブリスベン・ゴールドコースト) 23名
	•平成23年8月16日~8月22日	中国コース(西安・麗江・上海) 18名

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活	派遣事業参加者	∺π	人	目標値	75	75	75
	活動指標	派 追争未参加有	奴		実績値	75	63	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	84	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
成					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
田					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

・事前研修及び事後報告会の充実を図るなど派遣事業の強化に取り組んでいる。

			(人件費を	事業費 生除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
				歳出 (千円)	(A)	14,324	14,395	16,000
コマ	743	受益	者負担(使用料	•負担金等)				
<u>}</u>	源内	その	他特定財源(国·	·県支出金·起債等)				
面		一般	財源			14,324	14,395	16,000
	コス	スト 受益者1件当たり(円) (A/B				190,987	228,492	213,333
	指	標	票 受益者 中学生以上の市民			75	63	75

3	分析·評価(Che	ck) ※平成23年度の実績を評価							
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	宮の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニース	` がある	В		される英語スピーチコンテストや公募選 ほぼ一定の人数で推移しておりある程度	
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			VI 000°		
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない		*** • > /#./ * 7 • **	w ***	
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	草である	Α	・事業の主催は市及び教育委員会であるが、事業代行を利 高山国際協会が行っており、現在の体制が妥当であると表 る。		
			C (0)	市が実施する必要	[性が低い				
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		・一定人数の参加が得続	られ概ね成果が上がっている。	
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・派遣先や内容の検討も十分に行っている。・高校生、一般の参加者が少ないため、啓発を強化する必要ある。		
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		නි ත		
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト網	諸滅等がある程度図られている	Α	経費については、家賃 執行となっている。	、渡航費、日当などであり、適正な予算	
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてに 要である	ないため大幅な見直しが必				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった					
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	うった	В	高山市海外戦略ビジョンの実現に基づき、海外との人や文化 交流促進に寄与している。		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった				
		合計	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70 点	
(Г,	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)								
	(参考) H23事業評価結果 (二次評価) ・平成22年度事業評価において、コスト縮減に努めるとともに、将来の高山を担う人材の育成に向け、事業の効果測定を行い実効性を高めていく必要があるとの指摘をしており、こうした取組みを引き続き行う必要がある。								

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・事後発表会の実施について、参加者や形態の検討をすすめる。

	5	稚持• 収善	払入		稲小	廃止の検討	H24元了予定	
次年度の 実施方針 (担当課評価)		生、一般についてスピーチ: 教育課とも連携を強化し、	.トとも併せ、広く参加を呼び のさらなる充実を図る。	が掛ける	5.			

	0	維持•改善		拡大		縮小		廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	•将来	の高山市を担う人材の育成	えという	視点からの効果測定を行い	、よりタ	効果的な取り組みを検討し	ていくが	必要がある 。	

車	業名	215	523	自治体職員協力交流事業費	坦	当課		海外戦略室	内線
7	未省	枝 番		日沿州极兵ធ为人机争未兵	1=		WY INGE		
	会討	+	1	一般会計	413	政策			
予	款		2	総務費	総合	分野			
算	項		1	総務管理費	計画	基本施策	į		
	目		15	海外戦略推進費	1	施策			
	根拠討	+画		海外戦略ビジョン					
PIN	実施計画事業								
ī	市長公約								

1 事業の目的・概要(Plan)

Г		誰を(対象)	市民	対象者数	92,861 人
	目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・友好都市である中国雲南省麗江市より研修生を受け入れ、高山市の行好交流の推進と高山市の国際化を図る。	亍政について研修を 行	うことにより、両市の友
木豆	既要	事業の 実施手法 (手段)	・中国雲南省麗江市研修生の受入れ		

2 事業の推移・結果(Do)

・中国雲南省麗江市より研修生1名を受入れ ・海外戦略室及び畜産課において研修 H23の実績

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活	派遣事業参加者	÷¥1₁	人	目標値	2	2	2
	活動指標	派 色	3X		実績値	2	1	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	50	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値				
戓					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
血					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値	_	_	_
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

・研修内容の充実及び市民とのふれあいの機会の創出を図っている。

			(人件費る	事業費 生除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
				歳出 (千円)	(A)	5,113	2,771	6,343
コマ	74.3	受益	者負担(使用料	•負担金等)				
<u>+</u>	源内	その	他特定財源(国	·県支出金・起債等)				
面	訳					5,113	2,771	6,343
	ت =		The state of the s			54	30	68
	指	標				93,822	93,312	92,861

3	分析·評価(Che	eck) ※平成23年度の実績を評価	İ							
	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向	はどう	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴い	ニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В		伴い、市民の姉妹・友好都市を含めた海 おり、ある程度のニーズがある。	
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い					
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないが	か 	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	・自治体が受入れを行う	う事業であり市の実施が妥当である。	
				C (0)	市が実施する必要	性が低い				
				A (2)	A ② 目的とする成果が十分にあがっている					
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況は	はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	概ね計画どおりの研修	者を確保し目標を達成している。	
				C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実		A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない						
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負	担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	Α	・経費については、家賃 執行となっている。	表記書、日当などであり、適正な予算	
		が ・国等の補助金の活用など市の財政負 減する余地はないか ・受益者負担は適正か		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進があったか	に効果	A (2)	効果があった					
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成上で有効に機能したか		B (1)	ある程度効果があった		В	高山市海外戦略ビジョンの実現に基づき、海外との人や文 交流促進に寄与している。		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機 か	能した	C (0)	あまり効果が見られなかった					
		솜計		7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70 点	
(Г,	分析・評価で 明らかになったi A」評価にするため 必要なのかを記	課題・研修内容の充実を図るととも	もに、市民	との交流	の機会を創出して	Lv<.				
	(参考) H23事業評価領 (二次評価)						€化する必	3要がある。		

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

•研修内容の多様化

0	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	H24完了予定

次年度の 実施方針 (担当課評価)

・研修生2名を受入れるとともに研修内容のさらなる充実を図る。 ・研修生の人数の拡大について検討する。

	0	維持·改善	拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)		生の活動が見えるよう情報 拡大の検討については、研		いている	5ことから、市民等に対する	具体的	かな効果について明確にする	る必要が	がある。

事	業名	215 枝 番	524	姉妹友好都市交流促進事業費	担	当課		海外戦略室	内線 2416	
	会計 1		1	一般会計	<i>lus</i>	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして		
予			2	総務費	総合	分野	5	地域		
算	項		1	総務管理費	計画	基本施策	1	地域に住み続けたいという思いを育てる		
	目		15	海外戦略推進費	I	施策	4	ふれあいの推進		
	根拠計	画		海外戦略ビジョン						
5	実施計画事業		Ě	国内外姉妹友好都市等交流事業						
	市長公約 1		1	積極的な観光振興対策を実施します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光な	字307	万人をめざ	します	•		

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	市民	対象者数	92,861 人					
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・海外の姉妹友好都市であるアメリカ合衆国コロラド州デンバー市及び「を促進する。	中華人民共和国雲南名	省麗江市との友好交流					
概要	事業の 実施手法 (手段)	・姉妹都市・友好都市への派遣及び受入れ、交流	都市への派遣及び受入れ、交流						

2 事業の推移・結果(Do)

		_	-	ψ±
н	23	U	夫	村貝

・アメリカコロラド州デンバー市とのあらたな交流の在り方についての協議・アメリカコロラド州デンバー市公式訪問団の受け入れ・中国雲南省麗江市との友好都市提携10周年記念事業打合せ

		 指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活		+ 2	目標値		1120	1121
	活動	姉妹友好都市訪問団への派遣及び受入人数	人	実績値	50	10	_
	指標	算出根拠等		達成率(%)			-
	成			目標値			
	成果指	姉妹友好都市関係者との交流人数	人	実績値	120	20	-
	標	算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
成				実績値			-
成果面		算出根拠等		達成率(%)			-
囬				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等	1	達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-

		(人件費を	事業費 上除き繰越・補正を含む	;)	H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
			歳出 (千円)	(A)	8,345	625	5,950
コス	21.3	者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
面		財源			8,345	625	5,950
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	89	7	64
	指標	受益者	市民(4月1日現在)	(B)	93,822	93,312	92,861

3	分析·評価(Che	eck) ※平成23年度の実績を評価	i							
	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
1	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い は減少していないか	にして、 トニーズ E	A (2) ニーズが B (1) ある程度(C (0) ニーズが	のニーズ	がある	В		伴い、市民の姉妹・友好都市を含め おり、ある程度のニーズがある。	
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していない。	th E	A (2) 事業主体	を見直す		А		ながら高山・デンバー友好協 どとも連携し交流事業をすする	
3	活動内容の ・目的とする成果があがっているか 有効性 ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか			3 (1) 目的とす	る成果がある成果があ	十分にあがっている ある程度あがっている がってないため大幅な見直し	В	・様々な交流事業を実施 ロを増加させることが誤	げ交流人	
4	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実 執行方法 施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽 減する余地はないか ・受益者負担は適正か		向け実 負担を軽	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			А	・経費は渡航費用等でる	あり、適正な予算執行となって	にいる。
5	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機か	成を図る E 能した	A (2) 効果があった B (1) ある程度効果があった C (0) あまり効果が見られなかった			В	高山市海外戦略ビジョン 交流促進に寄与してい	ンの実現に基づき、海外との <i>.</i> る。	人や文化の
	1	合計	7	/ 10	0	\rightarrow		100点換算	70	点
([分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするたる 必要なのかを記	課題・一定の関係者のみでなく幅のに何が	広く市民を対	対象とした交流事	業を展開	していく必要がある。				
	(参考) H23事業評価編			においては、市脈	民意識の	醸成に配慮しながら推進す	る必要か	ずある。また、どのような者	『市と提携するのかについての	の"基準"の

(二次評価)

ょうなものを定める必要がある。 ·一部の市民のみの交流とならないよう市民全体への還元方法について検討する必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

ルーマニアシビウ市及び中国雲南省昆明市と友好都市提携を予定している。

0 廃止の検討 H24完了予定 維持·改善 拡大 縮小

これまで主体となっていた人的交流に加え、あらたに観光や地場産業の発展などにつながる交流について協議していく。

0 維持·改善 拡大 縮小 廃止の検討 H24完了予定 二次評価 (企画課·総務課·財政課評価) ・交流先の都市数が増えることから、交流促進事業全体を計画的に推進する必要がある。 ・一部の市民のみの一過性の交流とならないよう、市民意識の醸成や交流機会の創出に取り組む必要がある。 ・新たな観光・産業につながる交流を具体化させる必要がある。

i de	事業名	215 枝 番	525	国際交流事務費		当課	海外戦略室				
	会	会計 1 一般会計		613	政策		5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして			
	予算 款 2 項 1		2	総務費	総合	分野		5	地域		
算			1	総務管理費	計画	基本施策		1	地域に住み続けたいという思いを育て	3	
	E		15	海外戦略推進費	1	施策		4	ふれあいの推進		
	根拠	計画		海外戦略ビジョン							
	実施計画事業		Ě	国際交流事務費							
	市長公約		1	積極的な観光振興対策を実施します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光	字307	万人をめる	ざしま	ます	0		

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	市民	対象者数	92,861 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・国際交流の促進及び民間交流団体の活動支援を行う。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・国際交流活動の支援		

2 事業の推移・結果(Do)

	H23の実績	・市民外国語講座の実施(6ヶ国語、 ・英語スピーチコンテストの実施(参・韓国月間の開催 ・シビウ国際演劇祭ボランティアスタ	加者59名)
		指標名	単位	目標·実績
				ī

		指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	成	市民外国語講座受講者数	人	目標値	500	500	500
	成果指標	川氏外国品牌庄文碑名数		実績値	543	411	-
	標	算出根拠等		達成率(%)	109	82	-
	成	シビウ国際演劇祭ボランティア派遣者数	人	目標値	4	4	4
	成果指標	ノこう国际) 展別ポルランティア 加度日数		実績値	4	4	-
	標	算出根拠等		達成率(%)	100	100	-
	成果指標	市民の国際交流事業などへの年間参加人数	人	目標値			5,000
成		ID氏の国际文派事業など、の中间参加人数 		実績値	800	1,000	-
果面		算出根拠等		達成率(%)			-
囬				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)		·	-
			+±	日本店			

			(人件費を	●未負 と除き繰越・補正を含む	C)	決算額	決算額	予算額
				歳出 (千円)	(A)	2,877	1,802	5,596
コス	74.3	受益	者負担(使用料・	•負担金等)				
۲	源内	その	他特定財源(国・	県支出金・起債等)				
面	訳	一般財源				2,877	1,802	5,596
	=:	スト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	31	19	60
	指	標	受益者	市民(4月1日現在)	(B)	93,822	93,312	92,861

3	分析·評価(Che	eck) ※平成23年度の実績を評価	ī							
	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向	はどう	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズの確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴い は減少していないか	ヽニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	・国際化社会の進展に付まっており、ある程度の	伴い、海外都市との交流への関心か ニーズがある。	高
		13 mg 9 C C 0 73 C 173		C (0)	ニーズが低い					
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していない	לי b	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	・現在、市と飛騨高山国 る。	際協会などが連携し事業をすすめ	てい
				C (0)	市が実施する必要	性が低い				
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況に	はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・様々な事業を実施して 交流人口を増加させる	こいるが内容の充実や幅広く対象を ことが課題である。	広げ
				C (0)	目的とする成果があが必要である	がってないため大幅な見直し				
		・最小限のコストで事業を実施できてし、委託化など事業の効率化・省力化に		A (2)	事業効率化・コスト	宿減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負減する余地はないか	担を軽	B (1)		減等がある程度図られている	Α		D実施及びボランティアスタッフ派遣 Eな予算執行となっている。	に要
		・受益者負担は適正か		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進があったか	L	A (2)	効果があった					
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機		B (1) ある程度効果があった		った	В	高山市海外戦略ビジョンの実現に基づき、海外との人や文 交流促進に寄与している。		化の
L		n	.13072	C (0)	あまり効果が見られ	れなかった			Γ	
		숌計	7	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70 s	抗
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするたる 必要なのかを記	課題 かに何が かに何が	もに、一定の	の関係者	きのみでなく幅広く だ	万民を対象とした事業を展開	引していく	必要がある。		
(参考) H23事業評価結果 (二次評価) ・平成22年度事業評価において、飛騨高山国際協会の事務負担を行政が担っており、協会会員との役割分担について見直す必要があるとの指摘をしており、これ 対応を引き続き行う必要がある。							必要があるとの指摘をしており、こう	した		

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・既存事業の継続しつつ内容の充実を図っている。

	0	維持•改善	拡大	縮小	廃止の検討	H24完了予定	
次年度の 実施方針 (担当課評価)		都市とのさらなる交流の促 高山国際協会実施事業の3					

		稚村"以普	<u> </u>	加入		利自小、		発工の使制		口24元] アル
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)	•飛騨	高山国際協会の事務負担に	こつい	て見直す必要がある。また、	新たに	創設される日中友好協会(におい	ても同様の対応をとる必要	がある。	

事	業名	215 枝 番	526	海外戦略推進事務費	担	当課			海外戦略室	内線 2416	
	会計		1	一般会計	4//	政領	「にぎわい」のあるまちをめざして				
予	T W		2	総務費	総合	分里	ř	6	工業		
算	算 項		1	総務管理費	計画	基本的	地策	1	時代の流れに対応した活力ある工業の振	興を図る	
	目		15	海外戦略推進費	1	施領	7414	1	経営体質の強化		
	根拠計	画		海外戦略ビジョン							
	実施計画事業		AIIF	海外戦略推進事業							
	市長公約		1	積極的な観光振興対策を実施します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光	字307	万人をめ	ざし	ます			

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	市民	対象者数	92,861 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・高山市の国際化の推進に向け海外における積極的な活動を図る。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・誘客、物販等における海外戦略の推進		

2 事業の推移・結果(Do)

H23の実績	・国内外関係機関への職員の戦略派遣・外国人観光客の誘客PR・飛騨高山東京事務所運営委託・地場産品海外販路開拓事業(輸出セミナーの開催等)

	L								
				指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	ſ	活	トップセールス			目標値			
		活動指標	トラフセールス		Щ	実績値		8	-
		標	算出根拠等			達成率(%)			-
	ſ	成	以田「細火安」	:7 *h		目標値	300,000	300,000	300,000
		成果指標	外国人観光客入	.02.数	人	実績値	187,000	95,000	-
		標	算出根拠等			達成率(%)	62	32	-
	ſ	成	古業者の転担海	ᆔᄄᆂᄞᄵᄽ	件	目標値			7
L	ьじ	成果指標	争未有の新风冲	外販売契約件数	1+	実績値			-
ĺ	成果面	標	算出根拠等			達成率(%)			-
ľ	血					目標値			
						実績値			-
			算出根拠等			達成率(%)			-
	ſ					目標値			
						実績値			-
			算出根拠等			達成率(%)			-
	ſ					目標値			
						実績値			-
			算出根拠等		•	達成率(%)			-
					補	足事項	-		

平成24年2月に「高山市海外戦略ビジョン」を策定し、海外を対象とした誘客・物販・交流を一体的にすすめている。

			(人件費を	事業費 生除き繰越・補正を含む	·)	H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
				歳出 (千円)	(A)	0	34,218	44,920
コス	24.3	受益	者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源内	その	他特定財源(国·	·県支出金·起債等)				
面	訳	一般	財源				34,218	44,920
	تر =	スト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	0	367	484
	指	標	受益者	市民(4月1日現在)	(B)	93,822	93,312	92,861

3	分析·評価(Che	eck) ※平成23年度の実績を評価								
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い						
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α		め、国際観光、地場産品の海外販売、多 交流のさらなる推進が必要となってい		
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い						
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか				・市が主体となりつつ、 開を図る必要がある。	関係機関と密接に連携し多様な施策展			
			C (0)	市が実施する必要	性が低い					
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		\h_i = \frac{1}{2} \hat{\hat{\hat{\hat{\hat{\hat{\hat{			
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В		ま一定の成果が上がっているが、地場産 には官民一体となった取り組みがまだ十 況にある。		
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し),,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	,,,,,,		
	±4.47-±->+	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない					
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	減等がある程度図られている	В	・委託事業については別てきた。	派遣職員の活用などにより見直しを行っ		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である]られていないため大幅な見直しが必					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果 があったか	A (2)	A (2) 効果があった						
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があった		В	高山市海外戦略ビジョンの実現に基づき、誘客・物販・交流体的な推進に寄与している。			
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった					
		合計	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70 点		
([,	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)・事業内容の充実を図り、誘客・物販・交流等の関連付けを意識し、相乗効果を生み出すための取り組みを強化していく必要がある。									
	(参考) H23事業評価結果 (二次評価) ・海外戦略ビジョンを早期に策定し、観光・物販・交流において相乗効果が図られるような取組みを体系的・戦略的に実施する必要がある。									

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況 ・誘客や物販の促進につなげるため市内関係事業所等へのヒアリングを実施している。・来訪者が滞在しやすく買い物がしやすい受入れ環境の整備について、協議をすすめている。

拡大

次年度の 実施方針 (担当課評価)

維持·改善

0

- ・最新の情報通信技術を駆使したPRの強化 ・外国人観光客の動向の早期分析と次年度への活用
- ・広域的な観光ルートの整備、PRの強化・各種誘客・販売PR活動の効果の検証
- ・外国人と地域住民とのふれあいの機会の拡大 ・外国人が滞在しやすく買い物がしやすい環境の整備

0	維持·改善	拡大	縮小		廃止の検討	H24完了予定
	戦略ビジョンに掲げる目標: 物販・交流において相乗を		う、関係機関等との連携を 検討していく必要がある。	強化して	ていく必要がある。	

縮小

廃止の検討

H24完了予定

事	事業名 21528 核		528	外国青年国際交流員招致事業費	担	当課			海外戦略室	内線 2416			
	会計		1	一般会計	6//	政策	FE.	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして				
予	款 2		2	総務費	総合分		ř	5	地域				
算	算 項		1	総務管理費	計画	基本施策		1	地域に住み続けたいという思いを育てる				
	目		15	海外戦略推進費	1	施策		4	ふれあいの推進				
	根拠計	画		毎外戦略ビジョン									
513	実施計画	事業	¥	国際交流事業									
ī	市長公約		1	積極的な観光振興対策を実施します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光	字307	万人をめ	ざし	ます					

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	市民	対象者数	92,861 人
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・中国よりJETプログラムの外国青年を誘致し、国際化を図る。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・市民を対象とした中国語講座の講師 ・市民海外派遣(中国コース)参加者への中国の紹介や中国語会話の教・中国人来客訪問時の通訳	授等	

2 事業の推移・結果(Do)

H23の実績

・中国雲南省より国際交流員1名を受入れ・中国語講座の実施や来客訪問時の通訳、講演依頼への対応

			指標名	単位	目標·実績	H22	H23	H24
	活	派遣事業参加者	₩η	人	目標値	1	1	1
	動 指	派追事未变加 名	3 X		実績値	1	1	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成	中国語講座参加	去粉	人	目標値			
	成果指標	中国品牌庄 梦加	四四两庄乡加石双		実績値	92	71	-
	標	算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
成					実績値			-
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
Ш					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

			(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
	歳出(千円) (A)					894	944	1,288
コス		受益	者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源内	その	他特定財源(国・	·県支出金·起債等)				
面	訳	一般	財源			894	944	1,288
	تر =	スト	、 受益者1件当たり(円) (A			10	10	14
	指	標	受益者	市民(4月1日現在)	(B)	93,822	93,312	92,861

3	分析·評価(Che	eck) ※平成23年度の実績を評価								
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向は		(2) ニーズが高い						
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニ	ズ B	ある程度のニーズ	がある	В	・国際化社会の進展に伴い、市民の姉妹・友好都市を含めた外への関心が高まっており、ある程度のニーズがある。			
		は減少していないか	С	(0) 二一ズが低い						
			А	(2) 事業主体を見直す	余地はない					
2	② 市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	В	B (1) 一部見直しが必要である			・自治体が受入れを行う事業であり市の実施が妥当である			
			С	(0) 市が実施する必要	性が低い					
			А	(2) 目的とする成果が	十分にあがっている		概ね計画どおりの研修者を確保し目標を達成している。			
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はど	žうか Β	(1) 目的とする成果が	ある程度あがっている	В				
			С	(0) 目的とする成果があが必要である	がってないため大幅な見直し					
	④ 執行方法 の効率性	・最小限のコストで事業を実施できている ・委託化など事業の効率化・省力化に向り		A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない						
4		施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			・経費については、家賃 執行となっている。	、渡航費、日当などであり、適正な予算		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	С	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必	7/11C-6 2 CV-00				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進にがあったか	二効果 A	A (2) 効果があった			高山市海外戦略ビジョンの実現に基づき、海外との人や文化の 交流促進に寄与している。			
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を上で有効に機能したか	ТВ	ある程度効果があった		В				
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能 か		(0) あまり効果が見られ	れなかった					
		合計	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70 点		
(F,	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)									
	(参考) H23事業評価結果 (二次評価) ・事業がマンネリ化しており、もっと広く市民と交流できる場を創出する必要がある。 ・来航した外国青年が、帰国後も「親善大使」として市における海外戦略の一翼を担えるような仕組みについても検討する必要がある。									

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・市民海外派遣事業(中国コース)において中国文化の紹介、中国語会話の講師として出役

	0	維持·改善		拡大		縮小	廃止の検討	H24完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	·国際3	交流員を1名受け入れるとと	さもに、	幅広く市民に紹介しふれあ	う機会	を拡大していく。		

	0	維持•改善		拡大		縮小		廃止の検討	H24完了予定
二次評価 (企画課·総務課·財政課評価	•現行(の方法では、国際交流員と	交流で	きる市民はごく少数に限ら	れるたと	か、交流範囲・人数を拡大 で	する方法	去を検討する必要がある。	